

人間生活工学ワークショップ「生活になじむ情報空間／atmosphere としての生活情報」

日時：2013 年 11 月 14 日（木曜） 13：30～17：00（13：00 より受付開始）

場所：早稲田大学 西早稲田キャンパス 55 号館 2 階第 3 会議室（東京都新宿区大久保 3-4-1）

主催：早稲田大学創造理工学部人間生活工学研究室・（一社）人間生活工学研究センター（HQL）

手に馴染む道具，という言葉があるように，生活に馴染む情報，情報環境，情報空間，というようなものがあると思います。ここでいう情報とは，生活を便利にするという機能論から，健康を感じる，潤いを覚えるというような感性論まで，非常に幅があると思いますが，いずれにせよ，自然な生活のストーリーとそれを表現するためのメディアや，明示的に作られたものも暗示的に存在するものも含めてのインタフェイスということがポイントだと思います。ちょうど，いかにスタイリッシュでわくわくするようなアピランスの道具であっても，それ以上のものを持たない道具は道具とはいえないし，わくわくするようなアピランスであるがゆえに道具にはならない，ということと同じことが，情報空間ということにもいえるのではないかと思います。今回の WS では，3名の演者の方から広く話題を提供していただき，情報の視点から「生活」ということを改めて見つめ，これからのモノづくり（有体・無体含めて）に展開して行くことを目標としています。

（司会とナビゲート：早稲田大学創造理工学部 経営システム工学科 小松原明哲教授）

1 「ヒトを探求し拡張する装置としてのナチュラルユーザインタフェース」

橋田朋子先生 早稲田大学基幹理工学部 表現工学科 専任講師

ヒトが日々の生活の中で自分自身のポテンシャルを探求するための観察・表現装置を開発しています。例えばヒトが実世界に物理的にアウトプットできる自然な情報（呼気のような生理情報や手描きの筆跡などまで）や，脳内或は身体に備えているけれども簡単には外から窺いしれない情報（思考・嗜好・能力など）に着目して，これらを顕在化して自分や他人が観察しやすくする装置や，活用・拡張したりすることでこれまでになかった体験・表現を実現する装置の研究について紹介します。

2 「環境はどのように ICT サービス利用に影響するか：

ユーザ調査に基づくサービス利用の理解と，ICT サービスデザインへの応用」

片桐有理佳先生／大野健彦先生 NTT サービスエボリューション研究所

現代生活では，人々は日常生活において，多くの ICT サービスに囲まれた暮らしを送っており，日々，それらを取捨選択しながら利用しています。我々の調査によれば，人々の置かれた環境が，サービス利用行動に大きく影響を及ぼしていることが明らかになってきました。これまでのユーザ調査で得られた事例に基づき，サービス利用に影響を及ぼす要因について述べ，ICT サービスのデザインにどのように応用すべきかについて考察します。

3 「そこにあるモノ」

高橋賢治先生／宮下浩志先生（株）丹青社 文化空間事業部

人は常に何モノかに囲まれて存在する。その中で何を見て，何を感じているのか？そしてそう感じさせる“モノ”とは何か？事例をもとにモノの気配“atmosphere”をつかみ，共有していく「空間デザイン」のプロセスを紹介します。

4 質疑とディスカッション

【ご案内】

どなたでも参加できますが，事前にお申し込み下さい。会場の都合により先着 50 名まで受け付けます。

申し込み先：人間生活工学研究センター東京事務所 kouza@hql.jp（FAX:03-5405-2143）

氏名と所属・連絡先，HQL 会員にはその旨を明記して下さい。

参加費：2000 円（HQL 会員は 1000 円）。当日受付にて支払い。

東京メトロ副都心線「西早稲田」駅下車が極めて便利です（キャンパスは駅に直結）。

駅（早大理工方面出口）左手真上の校舎が会場となります（会場は 55 号館 2 階）。

